

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ゆにば		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 5日		2025年 11月 29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	42名	(回答者数) 29名
○従業者評価実施期間	2025年 11月 22日		2025年 12月 8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 10名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 9日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	学校から出された宿題については、スタッフが一人ひとりの理解度やペースに配慮しながら支援し、無理なく取り組める環境を整えています。基礎学力の定着を目指し、学習への苦手意識が強いお子さまに対しても、達成感を積み重ねられるよう関わることで、自信をもって学習に向き合えるよう支援しています。	視覚的な教材やタブレット学習を取り入れるほか、集中が続きにくい場合には短時間で区切るなど、お子さまの特性に応じた工夫を行っています。必要に応じて答えを示しながらも、「自分でできた」という経験を大切に、学習への前向きな気持ちにつながるよう支援しています。	保護者との連携を継続し、定期的な面談を通して学習の様子や家庭での困りごとを共有しています。今後も、ご家庭での学習習慣の定着につながるよう、情報提供や助言を行いながら、学習支援の充実を図っていきます。
2	遊びを通じてお子さま同士が自然に関わる機会を設けることで、言葉や表情などを用いたやり取りを経験できる環境を整えています。一人ひとりの性格やペースに配慮しながら支援することで、人と関わることへの不安を和らげ、安心して関係づくりができるよう促しています。	まずはスタッフとの信頼関係を大切に、スタッフが間に入ることで徐々に他児との関わりが広がるよう支援しています。「貸して」「入れて」「ごめんね」など、場面に応じた言葉を具体的に伝えながら、相手の気持ちを意識できるよう声かけを行っています。	今後も、遊びを通じた関わりの機会を大切に、さまざまな活動を取り入れながら、言葉や感情表現の幅が広がるよう支援していきます。引き続き、実際の関わりの中で経験を積めるような環境づくりを進めていきます。

3	<p>工作活動を通じて、指先の使い方や集中力を育てるとともに、作品を完成させる達成感を大切にしています。素材や課題を工夫しながら、楽しみの中で取り組める環境を整えることで、自己肯定感の向上や意欲につながる支援を行っています。</p>	<p>お子さまの発達段階や興味に応じて活動内容を調整し、シール貼りやちぎり絵など、取り組みやすい作業から段階的に進めています。季節や行事に合わせたテーマを取り入れることで、継続して楽しめるよう工夫しています。</p>	<p>今後は、素材や技法の幅を少しずつ広げながら、創作活動により楽しめる機会を提供していきます。また、作品を掲示するなど、自分の取り組みを振り返られる場を設けることで、達成感や意欲につながる支援を行っていく予定です。</p>
---	--	--	--

	<p>事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること</p>	<p>事業所として考えている課題の要因等</p>	<p>改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等</p>
1	<p>事業所全体として、取組の実施後に振り返りや評価を十分にを行い、次の改善につなげるPDCAサイクルの運用が弱い点が課題です。実施内容は共有されているものの、成果や課題を整理し、次の計画へ反映するまでの流れが明確でなく、改善が個人任せになりやすい状況が見られることも改善点として挙げられます。</p>	<p>日々の支援や会議では目の前の対応を優先する傾向があり、評価や分析に割く時間が十分に確保しにくいことが要因として考えられます。また、PDCAの各段階について職員間で共通認識が十分でなく、記録の目的が共有されていないため、検討内容が形式的になりやすい状況があると考えられます。</p>	<p>改善に向けて、会議や議事録の中で必ず評価と改善点を整理する項目を設け、次回の計画に反映する流れを明確にする必要があります。あわせて、PDCAの考え方を研修や共有の場で確認し、役割分担を意識しながら継続的に実践できる体制づくりを進めることが求められる。また、改善内容の実施状況を定期的に確認する仕組みを取り入れていきます。</p>
2	<p>活動中、利用者が活動している場所に対してスタッフの人数配分に偏りが生じ、支援が手薄になる場面が見られます。手が必要な場面と余裕のある場面が分かれ、全体を見た配置や立ち位置が十分に機能していません。</p>	<p>役割分担や配置の意図について共通理解が不足しており、各スタッフが「自分の持ち場」中心で動いていることが要因と考えられます。特に新しいスタッフには、全体を見る視点や配置の考え方が十分に共有されていないようです。</p>	<p>研修や日常の振り返りを通じて、活動ごとの基本的な立ち位置や役割分担を整理し、スタッフ間で共通認識を持つ必要があります。状況に応じて柔軟にカバーし合える体制づくりを意識していきます。</p>
3	<p>支援内容や役割について「大体できている」という認識にとどまり、責任の所在が曖昧になる場面があります。その結果、利用者への安全配慮や活動中・生活場面での確認が十分でない状況が生じることがあります。</p>	<p>指摘直後は意識が高まるものの、時間の経過とともに行動が定着せず、定期的な振り返りの機会も限られていることが要因と考えられます。利用者への安全配慮や関わりの判断が、経験や個人の感覚に委ねられている面もあります。</p>	<p>月1回のスタッフ自己評価シートを導入し、配置意識や見守り、安全配慮を自ら振り返る仕組みを整えていきます。管理側の指示だけでなく、継続的に意識づけができる環境づくりを進めていきます。</p>